

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 8年 1月 22日

事業所名 にじいろ立石

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	7		重心の利用者で全て車椅子の為に、有効なスペースが占領されている。近辺に移転検討中。
	②	職員の配置数は適切である	17	2		安全を優先に専門の看護師1日最低3名以上配置し、更に指導員を配置。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	17	2		
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	11	8		
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	16	3		
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	16	3		
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	8	9	保護者会の是非は今後検討。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	14	5		
適切 な支 援の 提 供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	16	3		
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	7	1	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	7		
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	7		
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10	7	2	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	12	7		
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	14	5		始業ミーティングにて当日利用者の注意事項を入念に全員に伝える。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	8		
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	17	1			

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	13	6		
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7	12		
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	6		
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	14	5		
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	18	1		重心のデイ活動で最も重要な点としている。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	7	3	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	11	7	1	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	10		
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	6	11	安全を考慮して直接活動に参加は控えている。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	4	11	4	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	16	3		
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	9	5	
	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	6		
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	15	4		相談支援及び個別面談を看護師含めて4人態勢で面談を樹脂して、より理解を深めていく。
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	14	保護者会開催は今後検討
保護	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	14	5		

者への説明責任等	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14	5		
	③⑤	個人情報に十分注意している	18	1		
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	19			
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5	12	
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	14	4	1	
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	19			車椅子利用の児童で災害対策は特に重要で、避難訓練を工夫して行っている。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	19			
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	17	2		
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	19			指示書は特に必要として、全員共有されている。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	19			

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果 (公表)

公表:令和 8年 1月 22日

事業所名 にじいろ立石

保護者等数 23(童数) 20回収数 割合87.0%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	18	2		手狭な感じがする。	利用者の大半が車椅子利用で実質手狭で、近辺に移転計画中。
	②	職員の配置数や専門性は適切である	11	9		通常スタッフ配置は分からない。	1日当たり専門の看護師3名以上と支援員3名常勤。

整備	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされている	18	2			
適切な支援の提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されている	20				
	⑤	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	17	3		他と比べて少ないと思われる。	活動の固定化を防止と活動の伝達を工夫する。
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	15	3	障害の無い子どもとの活動は必要性がないと思う。	重心デいの為、安全優先で無理に一般児童との活動は避ける。
保護者への説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	19	1			
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている	20				
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	20				
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	2	7	11	父母会は求めている。	当面様子見。
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	15	5			
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	20				
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している	18	2			
非常時等の対応	⑭	個人情報に十分注意している	19	1			
	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されている。	14	5	1		
満足度	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	19	1			
	⑰	子どもは通所を楽しみにしている	20				
	⑱	事業所の支援に満足している	20				

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等デイサービス自己評価表により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスにじいろ立石		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		2026年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 19
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフの連携が良いため、重心の利用者を安全に支援できている。	安全を最優先の重点に置いている。	常に人員の確保
2	看護師1日3名~4名常駐し、医療ケアを行っている。	看護師の人員確保をしている。	利用者の体調管理を保護者と医療機関及びデイとの連携を深める。

3	保護者面談を必ず看護師同席の上、より深く話し合いができる。	面談時、看護師含めて4名での対応を行っている。	年2回の面談以外にも相談を積極的に受け付ける。
---	-------------------------------	-------------------------	-------------------------

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援室が車いすスペースが多くとられ安全に支援するには狭い。	支援室が狭い。	現在近辺に物件を探している。早急に移転計画中。
2	広く保護者に活用内容が知らされていない。	情報を伝える手段が少ない為、保護者の理解が得られていない	ホームページをリニューアルし活動の情報を知らせる。
3	就学前の情報収集や卒業後の情報収集ができていない。	障害福祉事業所の交流が少ない。	現在開催されている「親の会」等に積極的に参加する。